

会 議 録

会議名 (審議会等名)		シビックプライドの推進に関する検討委員会(第1回)				
事務局 (担当課)		シティセールス・親善交流課 電話 042-707-7045(直通)				
開催日時		令和元年12月4日(水) 18時45分~20時30分				
開催場所		相模原市役所 第2別館3階 第3委員会室				
出席者	委員	7人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	6人 (渉外部長、シティセールス・親善交流課長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 委員・事務局紹介 3 委員長・副委員長選任 4 現状と課題について 5 シビックプライド向上に向けた取組について 6 その他 7 閉会				

審 議 経 過

委員の委嘱に続いて、第1回会議が開催された。主な内容は次のとおり。

(〇 は委員の発言、 △ は事務局の発言)

1 開 会

2 委員・事務局紹介

委員の自己紹介及び事務局の紹介を行った。

3 委員長・副委員長選任

シビックプライドの推進に関する討委員会規則に基づき、委員の互選により牧瀬委員を委員長に、佐藤委員を副委員長に選任した。

4 現状と課題について

事務局より、本委員会設置の背景及び目的、今年度予定している事業、本市のこれまでのシティプロモーションに係る取組、市政に関する世論調査結果について説明を行った。

事務局からの説明に対する主な意見等は次のとおり。

まちに対する「愛着」は「継続居住意向」と、また「誇り」は「他者推奨意向」と関連している。

「市政に関する世論調査」について、居住年数が長いほど「愛着」は高まる傾向にあるので、居住年数や性別、年齢別に数値を見た方がよい。

ファンサイトの創設は良い取組であると思う。継続性を考えての運用や市民等の参加意欲が湧くような展開とすることが重要である。

一般企業でもファンサイトの的なものをよくやるが、ポイントを付けて入ってもらってもポイントを取ったら出ていってしまう。自分からまちづくりに参画するという、まちを良くするために自らがやってみたいという当事者意識を持ってもらうことと、いかに継続性を保てるかということ、また職員の熱意が非常に重要になると思う。

現在、開発委託業者と詳細を調整しているが、継続性を保つことが重要であると考えており、気軽に楽しめ、飽きさせない仕組みを作っていきたいと考えている。ファンサイトの開発状況についても本委員会で報告させていただく。インターネット上だけではなく、実際に市民が集えたり、会話できるような場所なども必要である。

ファンサイトをきっかけとして、市内の各地へ足を運んでいただけるような仕掛けや、常にリニューアルを重ねていくことが大事だと考えている。

自治体が率先して取り組んでいると、参画している市民から共感が得られる。「誇り」を醸成するのはとても時間がかかるが、市の在り方に対する「共感」は比較的中期的に醸成される。

シビックプライドを向上させるには長い時間が必要となる。また、上から下に押し付けることにならないような配慮も必要である。

イベントの実施の際には、参加者数等の目標値を定めて結果に対する分析を行い、次につなげていく必要がある。調査についても同様に結果を分析することが重要である。

シビックプライド調査では相模原市より近隣自治体の方が上位にある。また、通勤で小田急線を利用しているが、吊り広告などに相模原はあまり見かけない。民間がやっていることではあるが、近隣自治体の宣伝はよく見かける。

誇りや愛着などに関する調査は、調査時期に悪いニュースなどがあると影響を受けることもある。

さがみはらファンサイトにおいて、利用者に情報を拡散してもらおうとあるが、どのような拡散方法を考えているか。

ファンサイトをご覧いただいた方のSNSで拡散いただくことを考えている。市が発行しているPR冊子は内容が良いが知られていないのが残念である。ファンサイトやSNSなどを活用しての情報発信が有効ではないか。若い世代はSNSの中でもInstagramをよく利用している。

シビックプライドランキングでは、近隣市が比較的上位に入っているが、何か理由があるのか。

近隣市はシティプロモーションに力を入れており、その効果であると考えられる。歴史があったり、湘南などの有名な海（自然）がある自治体はシビックプライドが高いのではないかと思うが、近隣で上位に入っている自治体の理由を調査してもよいのではないか。

シビックプライド向上の効果として定住だけでなく、移住者の増加も考えられる。

まちづくりの推進や観光振興を図る取組を行っている「ふるさと回帰支援センター」などを活用してもよいのではないか。

藤野地域は東京都と比較的近く、芸術家も人口の4%ほどおり、芸術関連のイベントも開催している。また、若い世代がライフスタイルや暮らし方を考えた時に藤野を選ぶ人も多く、こうした方達は愛着が強く、都市と自然のベストミックスが可能と考えている。

5 シビックプライド向上に向けた取組について

各委員の立場で感じている本市に対する誇りや愛着について、また、シビックプライドにつながるような活動や経験などについて、意見交換を行った。

主な意見等は次のとおり。

長崎県のある自治体では、話題性のある動画の作成を考えていたが、話題になってもなかなか人が来てくれないという課題があるため、人が来てもらえる場所を作る取組として、廃校を活用し地元の高齢者が運営する食堂を立ち上げ、地元の食材を使ったメニューを提供している。日曜日だけの営業であるが、そこで働く高齢者はここで働くことを楽しみにしており、誇りや愛着の醸成につながっている。

藤野は交通アクセスの良さから都内から来られる人が多い。市民はあまり藤野に行かないが、藤野のことを市民が知らないのではないか。

最近、藤野の里山体験ツアーの影響で訪れる人が増えている。今後、さらに積極的に取り組んでいきたい。

ファンサイトは最初の立ち上げ時が大事である。次回、概要を示してほしい。意見を言うことは可能か。

次回に概要をお示しする。また、ご意見もいただきたい。

6 その他

事務局より、今後の本委員会の開催時期及び検討事項について説明を行った。

7 閉 会

以 上

シビックプライドの推進に関する検討委員会（第1回）委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	加藤 優季	学生		欠席
2	北村 俊明	株式会社 読売広告社 ひとまちみらい研究センター 所長		出席
3	佐藤 鉄郎	一般社団法人 藤野観光協会 事務局長	副委員長	出席
4	高田 泉	公募委員		出席
5	野村 邦丸	フリーアナウンサー ラジオパーソナリティー		出席
6	長谷川 彩華	公募委員		出席
7	牧瀬 稔	関東学院大学 准教授	委員長	出席
8	山田 康博	公益社団法人 相模原青年会議所 専務理事		出席